

6割の施設で薬剤師採用難 自治体病院の実態調査

約6割の自治体病院は常勤薬剤師を十分に確保できていないことが、全国自治体病院協議会薬剤部会が実施した調査で明らかになった。2019年度の採用状況について319施設の回答を解析したところ、募集しても1人も確保できなかった病院は36.1%、募集人数の一部しか確保できなかった病院は25.7%に達していた。

回答を病院立地別に解析すると、医療資源の少ない地域や過疎地域、不採算地区に立地する病院（109施設）では、募集しても1人も確保できなかった病院は54.1%、募集人数の一部しか確保できなかった病院は14.7%と合計で約7割になり、平均値より高かった。募集人数を全て確保できた病院は31.2%だけで、地域偏在が認められた。

一方、都市部に分類される病院（99施設）でも、募集人数を全て確保できた病院は48.5%と半数にとどまっており、都市部でも薬剤師を十分に確保できていないことが分かった。

病床規模別では、規模が小さい病院ほど薬剤師の確保に苦労していた。募集しても1人も確保できなかった病院の割合は、99床以下の病

院では54.8%、100床台の病院では63.3%に達していた。

回答があった全病院で採用できた人数の合計値を、募集人数の合計値で割った常勤薬剤師の採用率は55.3%。17年度の調査では61.7%だったが、18年度には59.3%に低下した。19年度はさらに4.0ポイント下がっており、薬剤師の確保は年々困難になっていることが明らかになった。

病棟薬剤業務との相関を解析した結果、募集しても1人も確保できなかった病院の割合は、病棟薬剤業務実施病院では28.6%だったが、同業務を実施していない病院では60.9%に達し、薬剤師不足が病棟薬剤業務の実施に影響している可能性が示された。

7月10日に開かれた日本病院薬剤師会のフューチャーファーマシストフォーラムで結果を報告した同部会長の室井延之氏（神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長）は「地方の病院ほど採用が困難な状況だった」と言及。病棟薬剤業務などの進展を薬剤師不足が阻んでいるとし、「その解決が喫緊の課題」と投げかけた。

（2021年7月14日掲載）

厚生労働省は8月4日、「医薬品産業ビジョン2021」の骨子案を自民党の創薬力の強化育成に関するプロジェクトチームに示した。コロナ禍を踏まえ、ワクチン・治療薬など優先度の高い領域を入口から出口まで支援すること、後発品の供給不安が発生した場合は保険収載を見送るといったメーカーの責任強化などを盛り込んだ。

政府の医薬品産業の方向性を取り組むべき施策を示した同ビジョンの改訂は8年ぶり、8年間の環境変化を反映したものとなった。骨子案では、▽革新的創薬▽後発品▽医薬品流通▽経済安全保障——の各分野に分けて記載した。

革新的創薬分野では、医薬品開発が高度化する現状を踏まえ、重点支援領域を設定するほか、ワクチンや治療薬など政策的優先度の高い領域で入口から出口まで伴走して支援する。

薬価制度の透明性と予見性の確保も重要とし、イノベーションの評価、

医薬品産業ビジョンで骨子案

重点領域決め、創薬後押し

原価計算方式の透明性向上、ワクチン等の定期接種化プロセスの効率化、緊急時の国による買い上げ、承認取得後も支援するプル型インセンティブの導入検討も記載した。

後発品メーカーによる供給不安や、製造工程上の不正事案等が見られた後発品分野については、安定供給に関するメーカーの責任強化を明記。

具体的には、製造品目数や製造量等に見合った管理体制を承認段階、GMP適合調査で確認すること、開発段階のデータに対する説明責任の強化や規格揃えのあり方など共同開発の見直し、保険収載時の安定供給確認の徹底と供給不安発生時の収載見送りなどを行う。

使用促進策として、バイオ後続品処方時の診療報酬上の評価、フォーミュラリー活用などを盛り込んだ。

医薬品流通分野に関しては、供給不安発生時の流通スキームを検討すること、優先度の高い安定確保薬に関する緊急時の流通在庫等を把握するスキーム検討、厚労省の流通改善ガイドラインの見直しと徹底を通じて適切な価格交渉などを図る。

経済安全保障分野を見ると、国際的な合意に則った緊急時の臨床試験フレームプロトコルの作成、緊急事態における特別使用を認める制度のあり方を検討することや、ワクチン国家検定の迅速化と簡素化も記した。

（2021年8月6日掲載）

Q 薬学部5年生です。就職活動に本格的に開始したいと思っていますが、実は薬剤師の仕事に就くことに迷い始めました。実務実習先の薬局で薬剤師は、薬を早く渡してほしいと急かす患者を待たすまいと調剤業務に追われてばかりでした。病院でも、薬剤師から医師への処方提案はほとんど行われておらず、多職種連携の実際もあまり感じ取れずにガッカリしました。薬剤師になってもやりがいを感じられそうになく、ほかの職種に就こうかと迷っています。

A 病院と薬局、それぞれの「仕事の現場」を具体的に見て、経験され、自分が思い描いていた想像とは違った現実があったとのこと。さぞやガッカリされたのではないかと思います。

さて、周りのご友人たちの実習経験はいかがだったのでしょうか？実習先となる病院や薬局はたくさんありますので、現場の様子も様々だと思います。自分と違

薬学生 キャリア相談 Q&A



キャリア・ポジション
代表取締役

西鶴 智香

薬剤師の仕事に就くことを迷っています

う場で実習をされたご友人の話も聞くと、参考になりますよ。

薬局では、担当患者と信頼関係を築き、薬だけでなく患者に合わせた生活のアドバイスをを行う薬剤師は多いですし、病院には、薬の専門家として医師や看護師と日常的に薬の適正処方についてディスカッションしたり、提案したりしている薬剤師もいます。そんな薬剤師とそうでない薬剤師では、職業の捉え方、自分の志や目標、その目標を達成するための毎日の行動に何らかの差異があると思います。そういった点に着目し、ご友人から是非情報を集めてみてください。おそろく期待通りの業務を展開している病院や薬局が見つかると思いますよ。まずはそれからやってみて！

ところで、実習先での先輩薬剤師の仕事ぶりにガッカリしたとのことですが、

その先輩薬剤師の課題は何だと思いませんか？薬局で、薬を渡すことを急かす患者は、薬剤師と話すことでどんな価値を受け取れるのかを知らないわけです。大きな価値を提供できることを薬剤師が必死に伝えていないことが課題ではないでしょうか？病院では、医師は「患者を治す」ことを使命とし、責任と情熱を持って毎日勉強し挑んでいます。患者を治すために「薬の専門家」として存在する薬剤師が、そこまでの知識と情熱を持っているのが課題ではないでしょうか？

日本の薬剤師の将来の姿は皆さんがつくっていくわけで、現在課題があるならば、なぜそうなのか、どうしたら良いのかを明確に意識しておく必要があると思います。薬剤師はとても魅力的な仕事だと思いますよ。

薬

のことも 薬事日報ウェブサイト

<https://www.yakuji.co.jp>

「薬学生新聞」もウェブサイト公開中!!

薬事日報

検索